

明治 20 年代三菱の社内文書送受の検証－三菱経営管理組織研究に向けて－

要旨

本稿は、明治 20 年代の三菱における本社－九州地方間の連絡手段である社内文書送受の過程を検証したものである。この検証の目的は、在長崎管事・三菱炭坑事務所・長崎支店（1894 年 1～11 月）の一役職二組織が、文書の内容により、九州の諸事業所－本社間の文書送受に介在したことを、史料から明らかにすることである。

これら三機関が三菱経営管理組織の歴史上に果たした役割は、研究上疑問視されており、現状では消極的評価にある。しかしその評価にも議論すべき余地が残されており、三機関の再考は、三菱の経営管理組織研究に新たな解釈を与えるものと筆者は考えている。

以上の問題関心と研究の現状をふまえ、本稿は三機関の実務を史料から復元することを試み、史料制約により直接明示できないものもあったが、事業所から本社に送付される文書、本社から事業所に送付された文書、それぞれに三機関が関与した証拠を発見した。これにより、「三機関が仕事をしていた」という、ある意味当然のことではあるが、分析上不可欠の土台を構築したと考えている。